

河口がいく筋にも分かれていることを意味するアイヌ語「オペレペレケプ」が由来の「オビヒロ」。清らかで豊かな水源を有する帯広市には、十勝川や札内川をはじめ、無名川も含めると、百以上の大小さまざまな川が流れています。

最近、帯広川に架かる「鎮橋^{しずめばし}」の工事に関する報道を見ました。小学生だった頃、「しずめばし？川に沈まないためにある橋の名前に、なぜ」沈め「なんてつけたんだろう？」と思ったことがあります。当時、川が氾濫したことがあり、「川の水があふれたら大変なのに」と感じていたため、「沈め橋」という言葉からくる語感のギャップがあつたのだと思います。長じて、勢いを抑えること、自然などに宿る神々の怒りを収めることを意味する「鎮める」という漢字が当てられていると知り、納得がいったことを思い出します。

河川は、古くから生活用水や農耕に利用されてきましたが、物資の輸送・交通機能も有するようになると、人々の生活や経済の基盤づくりに大きな影響を与えました。海外の都市も、水運に支えられて発展してきた歴史があり、パリの紋章には、こんな標語が刻まれています―「漂えども沈まず」。

「たゆたえども沈まず」というタイトルで小説にもなっているため、ご存知の方が多いかもしれません。パリを流れるセーヌ川の氾濫による被害を何度も乗り越えてきた歴史や、一つのことに固執せず、さらりと受け流すことを美德とするフランス人の気質を表しているといわれています。

船は、荷物を積み過ぎると沈んでしまします。沈まないためには何かを捨て、軽くなるしかない。私は物事がうまく進まない時には、この言葉をそう捉えて「残すべきものは何か、捨てるべきものは何か」と自分に問いかけてみることを大切にしています。川は、人の生き方や気持ちの在り様に例えられることが多く、さまざまな示唆を与えてくれる存在だと思います。身近に豊かな自然を感じられる帯広の川。毎年、町内会の皆さんが中心となり、全市一斉河川清掃に取り組んでくれています。40年以上も続く活動で、今年も9河川で2千人を超える参加がありました。また、この地域の水道水の源である札内川では、企業や子どもたちによる清掃ボランティアなども行われています。

天気の良い日は、市民の皆さんの手で、きれいな景観や環境が守られている川辺に出掛けてみてはいかがでしょうか。

市長コラム

夢かなうまち
おびひろ

「川」に思う

帯広市長 米沢 則寿



川は、古くから生活用水や農耕に利用されてきましたが、物資の輸送・交通機能も有するようになると、人々の生活や経済の基盤づくりに大きな影響を与えました。海外の都市も、水運に支えられて発展してきた歴史があり、パリの紋章には、こんな標語が刻まれています―「漂えども沈まず」。

「たゆたえども沈まず」というタイトルで小説にもなっているため、ご存知の方が多いかもしれません。パリを流れるセーヌ川の氾濫による被害を何度も乗り越えてきた歴史や、一つのことに固執せず、さらりと受け流すことを美德とするフランス人の気質を表しているといわれています。

船は、荷物を積み過ぎると沈んでしまします。沈まないためには何かを捨て、軽くなるしかない。私は物事がうまく進まない時には、この言葉をそう捉えて「残すべきものは何か、捨てるべきものは何か」と自分に問いかけてみることを大切にしています。川は、人の生き方や気持ちの在り様に例えられることが多く、さまざまな示唆を与えてくれる存在だと思います。身近に豊かな自然を感じられる帯広の川。毎年、町内会の皆さんが中心となり、全市一斉河川清掃に取り組んでくれています。40年以上も続く活動で、今年も9河川で2千人を超える参加がありました。また、この地域の水道水の源である札内川では、企業や子どもたちによる清掃ボランティアなども行われています。

天気の良い日は、市民の皆さんの手で、きれいな景観や環境が守られている川辺に出掛けてみてはいかがでしょうか。

帯広市は6月に
ゼロカーボンシティを表明しました

問い合わせ 環境課（市庁舎6階、☎65・4135）

ゼロカーボンシティとは、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロ（カーボンニュートラル）を目指し、全市一丸となって取り組むことを表明した自治体のことです。

帯広市は、昭和34年に初めて総合計画を策定して以来、都市機能と自然が調和する田園都市の理念を継承し、持続可能なまちづくりを進めてきました。

今後も、豊かな自然環境を保全しながら、利便性の高い住みよいまちづくりを進め、都市としての価値を高めていく必要があります。

このため、帯広市は環境モデル都市として積み重ねてきた実績を基盤に、地域特性を活かした脱炭素の戦略を描き、「2050年ゼロカーボン」の実現を目指します。

■カーボンニュートラルとは？

カーボンニュートラルとは、2050年までに温室効果ガスである二酸化炭素の「排出量」から、植林や森林管理などによる二酸化炭素の「吸収量」を差し引いた合計を「ゼロにすること＝実質ゼロ」とする考えです。2020年10月、政府はこの考えを基に2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする（カーボンニュートラル）、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しました。



■帯広市の今後の取り組み

2050年ゼロカーボンの目標を達成するため、市民・事業者・行政などが協働し、新たに策定する計画に基づき温室効果ガス排出削減の取り組みを進めていきます。計画については、関係機関や市民の皆さんから意見をいただきながら、令和6年度からの開始に向けて策定していきます。

OBIHIRO
CAMERA
REPORT

オビヒロ カメラレポ



ごみの減量や資源化に関心を持ってもらうため、春のリサイクル広場を開催しました。



電動生ごみ処理機や、カラスよけサークルなどを展示したり、家庭ごみを減量するためのアイデアなどを紹介しました。



ごみの減量や飛散防止の取り組みには、市民全員の協力が不可欠です。身近なごみについて、改めて考え、環境にやさしいまちを目指しましょう。（6月1～3日、市民ホール）

地元生産者が農産物を販売する夕市では、毎週8店舗程度が並び、季節ごとの野菜や加工品などを購入することができます。



初日のこの日は、開始時間前から50人以上の来場者が列をなし、待ちに待っていたお客さんたちが、新鮮な野菜やマッシュルームのほか、花の苗などの買い物を楽しんでいました。夕市は、10月27日までの毎週木曜日に開催していますので、地元のおいしい農産物などを皆さんもぜひ味わってみてください。（6月2日、とかち大平原交流センター）



市政のお知らせを放送しています

◆テレビ 市役所だより（OCTV 11ch）
毎日4回放送していて、市ホームページからもご覧になれます。

◆ラジオ（毎週月・水・金曜日）
おびひろタウンインフォメーション（FM-JAGA77.8MHz）9:15～9:20
おびひろ広報メモ（FM-WING76.1MHz）9:30～9:35

広報おびひろの感想を聞かせてください

最後まで読んでいただきありがとうございます。よりよい広報紙にするために「こうした方が読みやすい」など皆さんの感想をお聞かせください。
問い合わせ 広報広聴課（市庁舎3階、☎65・4109、FAX 23・0156、Eメール report@city.obihiko.hokkaido.jp）